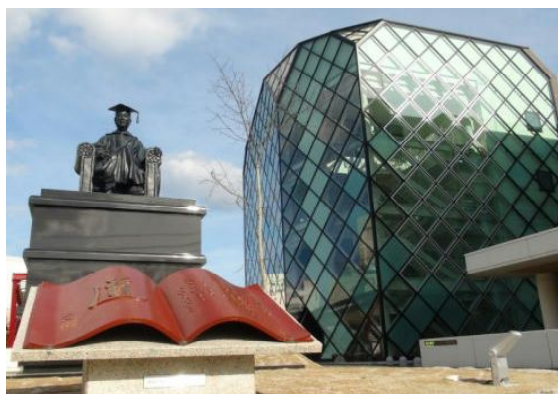


平成24年度 事業報告

岡山理科大学

理学、工学、総合情報学のキーを駆使し、あらゆる学際領域を探求。地球を視野に高度なサイエンスを創造する。



1. 岡山理科大学は創立50周年に向け、新建物の建築計画を推し進めました。キャンパスを再開発し、教育・研究環境を充実させるとともに芝生広場等の憩いの場を創生します。特に、新

建物においては、質の高い学びの場を構築するため、自学自習環境を整備するとともに、食堂も充実させることで、学生の満足度の向上に努めました。

2. 教育面においては、カリキュラムの充実化を目指すとともに、FDに積極的に取り組み、高品質な講義の提供を行いました。また、教育に専念する教育講師を配属し、初年次教育を推進しました。

3. 研究面においては、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業等、競争的外部資金の獲得を目指しました。萌芽的研究や優秀な研究には、研究費の傾斜・重点配分による支援を行いました。

4. 学科入学定員の見直しや教育内容の改善等については、継続的に検討を行い、変更・改定を実施しました。

5. 大学基準協会の認証評価に向け、認証評価報告書を作成し、提出しました。将来へ向けての自己点検評価システムを構築し、機能させます。

6. 岡山理科大学は社会における役割を自覚し、大学コンソーシアム岡山等を通じた地域貢献事業を積極的に行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献しました。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教学の充実

■学生の多様なニーズへの対応

平成23年度学部卒業生1,020名に対して平成24年度学部入学生1,513名を迎え、学生数増加によって生じる学力の多様化など教学面の様々な課題に取り組みました。

学生の学力レベルに対応できる支援体制として、入学前教育、入門科目教育、学習相談を主な職務とする「教育講師」の職階を新たに設置しました。

また、平成24年度は、視覚障がい学生（全盲）と肢体不自由学生（車いす）を受け入れました。2名の学生が充実した学生生活を送ることが出来るよう、環境整備、修学支援、生活支援に取り組みました。

■新学務システムの稼働

平成24年度から新しい学務システムが稼働しました。新学務システムはインターネット利用によるWeb履修やポータルサイト（休講・補講・教室変更情報の検索、施設の予約）などの機能を備えており、学生や教職員に対するサービスの向上を目指しました。

■キャリア支援の充実

キャリア支援科目選択必修化の2年目にあたり、平成21年度から3年間実施された学生支

援推進プログラム「地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築」への取り組みを発展的に継続し、正課および正課外両面からのキャリア支援に取り組みました。

平成22年度に選定された大学生の就業力育成支援事業「ものづくり教育と地域連携による就業力育成」は平成23年度限りで廃止となりましたが、その取組について平成24年度も継続実施しました。また、文部科学省が平成24年度新規事業として予定している「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に参加しました。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD講演会、FD・SDカフェ、授業アンケート、学習と生活に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。授業アンケートに関しては、学生満足度を高めるために有効な設問となるよう質問内容を大幅に変更しました。

■教員採用試験の支援

平成24年度の教員採用試験現役正規合格者は延べ32名、既卒者を含む正規合格者は延べ121名でした。平成24年度も教職ビデオ講座、教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。

■B3群の設置

学部生のカリキュラムにB3群を新たに設置し、専門分野を超えた現代の科学技術の基礎知識を幅広く教育し、科学の振興につながる人材の養成を目指しました。「科学ボランティアリーダー養成科目」や「現代人の科学」などで構成しました。

■成績評価『秀』(S)の創設

本学の学習の評価基準を見直し、学生の学習意

欲を高めるため『優』『良』『可』『不可』の評価の上に新たに『秀』を加えました。また、学生の成績レベルをよりの確に把握できるようGPAの算出方法を変更し、より効果的な修学指導を目指しました。

学科・コース等新設

■生物地球学部生物地球学科 開設

総合情報学部生物地球システム学科を発展的に改組し、生物地球学部生物地球学科を開設しました。

生物地球学部生物地球学科は、生物や地球・宇宙に関して多様な興味を持つ学生に対して、①植物・園芸学、②動物・昆虫学、③地理・考古学、④地球・気象学、⑤天文学の5コースを設け幅広い教育を行います。教育課程は、従来の積上げ型教育編成ではなく、野外調査実習などの実験実習科目を教育課程の中心に据え、豊かなフィールドワーク経験を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力、計画性、創造性、柔軟性などのジェネリックスキルの育成を目指します。さらに個々の分野においても高い専門知識・技能を修得させることで多様化した現代社会のニーズに応える人材の育成を目指します。

■理学研究科動物学専攻 開設

理学部動物学科を基礎とする大学院理学研究科動物学専攻（修士課程）を開設しました。

動物学専攻では、理学部動物学科の4年間の教育を基礎とし、野生動物を対象とした国際的なレベルの教育研究を行います。また、人間の健康や生存に深く関わる哺乳動物を飼養し、その特性を明らかにすることによって、「種の保全」や「人類の生存」に繋がる教育研究を行っていきます。これらの教育研究を通じ、動物学に関する高度な学識を身につけることで、地球環境の保全と人間の健康と安全を守り、持続可能な社会を実現して

いく、広い視野をもつ人材の育成を目指します。

■入学定員の変更（変更分のみ）

《学部》

生物地球学部生物地球学科（定員100名、内30名定員増）設置に伴い、以下のとおり入学定員を変更しました。

総合情報学部 生物地球システム学科

70名→ 0名（募集停止）

生物地球学部 生物地球学科

0名→100名（30名定員増）

《大学院》

理学研究科動物学専攻（定員4名）設置および総合情報研究科シミュレーション科学専攻の学生募集停止に伴い以下の通り入学定員を変更しました。

理学研究科

応用数学専攻 7名 → 6名（1名減）

応用物理学専攻 14名 → 13名（1名減）

総合理学専攻 13名 → 12名（1名減）

生物化学専攻 14名 → 13名（1名減）

動物学専攻 4名（新設）

工学研究科

知能機械工学専攻 7名 → 8名（1名増）

総合情報研究科

情報科学専攻 6名 → 7名（1名増）

生物地球システム専攻 6名 → 7名（1名増）

シミュレーション科学専攻 3名 → 0名（3名減）
（募集停止）

文部科学省選定事業

■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度に理学部が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の2年目の取り組みを行いました。

テーマ1：新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2：鉱物微小領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度・高精度化、及びその応用

テーマ3：新たなルミネセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数：8名

代表者：理学部 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

2. グリーン元素科学

平成21年度に理学研究科が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の4年目の取り組みを行いました。



テーマ1：汎用元素による新機能創出

テーマ2：元素のハイブリッド化による新物質創出

テーマ3：生体物質を利用した省元素資源

研究者数：17名

代表者：理学研究科 教授 森重 國光

事業期間：平成21年度～平成25年度（5年間）

3. QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。本年度は補助期間5年計画の1年目の取り組みを行いました。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者数：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

■おかやま医療機器開発プロフェッショナル

平成20年度「科学技術戦略推進費」に採択された同プロジェクトは、工学部生体医工学科を中心とし、医療機器開発の



スペシャリストを養成するプログラムで、中間報告ではA評価を受けました。本年度は補助期間5年計画の最終年度の取り組みを行いました。

研究者数：15名

代表者：工学部 教授 林 紘三郎

事業期間：平成20年度～平成24年度（5年間）

■平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

取組名称：産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としています。本年度は補助期間3年計画の1年目の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度(3年間)

■平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業

平成24年度に工学部プロジェクトコースが申請し採択されました。

取組名称：「サイエンスドリームラボによるフロンティア技術者教育の活性化」

取組内容：加工技術に関わる最新設備を整備し、現在のカリキュラムと融合することにより、「主体的な学びの姿勢」、「独創性」、「チームワークの意識」、「プロジェクトの企画力・実践力」などを体得した、真に社会貢献できるプロジェクトリーダーとなり得る技術者の養成を目指す取組です。

取組担当者：工学プロジェクトコース

教授 平野 博之

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費補助金、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進します。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、ガイドラインの周知や獲得者への研修会を実施しました。また、公的資金で購入した物品の検収を行いました。

■知的財産化

1. 発明の知的財産化

研究者の職務発明を知的財産化することを目指し、職務発明審査委員会を通じて発明の発掘に努めました。今年度は、7件の職務発明がありました。

2. 特許セミナー

知的財産権セミナーを年数回開催し、研究者および学生の知的財産の理解のための研修を行いました。

■産業界との交流を活発化

地域産業界との交流行事に参加し、地元企業との連携を深めました。

1. 岡山県主催の「100社訪問」等の行事に参加し、地元企業との交流に努めました。

2. (株)日本政策金融公庫ビジネス交流会に参加しました。

3. おかやま信用金庫のビジネス交流会に参加しました。

4. 岡山市(岡山工業会・SEO等)等県内市町村とのビジネス交流会に参加しました。

5. トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流を実施しました。

6. 各種企業・異業種交流会等に参加し、産官学連携活動の広報活動を積極的に行いました。

7. 本学の紹介を兼ねて官庁や産業界からの見学依頼を受け入れました。

■大学間の交流

今年度より2年間、本学は大学コンソーシアム岡山の会長校となりました。会長校として、県内16大学のもとにある大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部を中心に大学連携を通じて岡山の活性化を目指しました。昨年度終了したG P事業『「岡山オルガノン」の構築』に関する事業も大学コンソーシアム岡山が継承しています。本年度は期間2年の1年目が終了しました。

■委託公開講座

岡山県からの委託による岡山県生涯学習大学大学院コース(全8回)を開講しました(8月から11月まで)。

■外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。

各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2012を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等を行いました。今年で12回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズを公開しました。

1) 「OUSフォーラム2012の開催」

(11月21日：岡山)

2) J S T 科学技術振興機構「新技術説明会」での発表

(東京)

3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」

(9月10日：岡山)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」を発行し、広く配布しました。また、ホームページの運営等を通じ、積極的に研究内容の発信に努めました。

就職活動支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施で計7回行いました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー等を時期に応じて開催しました。

1年、2年次生の低学年に対してのガイダンスも各年次毎に数回行い、3年次生に行うガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。



■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施しました。就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催・実施し、企業希望者と公務員希望者の実状に即した内容の提供を検討しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する、学内合同企業説明会を開催しました。また、企業人事担当者や教職員との情報交換会である就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4 を発刊しました。各年次において、ガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就活ダイアリーの発行

就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備などの確認に活用できるよう指導しました。3年次生・大学院1年次生の学生生活をトータルサポートしました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に「就職・進路懇談会」を実施しました。各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者で、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談会を実施しました。

平成25年度入試

本学の入学者受入方針は、本学がもつ研究領域の学習を強く希望する学生と、高度な研究をめざす学生の確保です。平成25年度入試では、早期の入試で本学への入学意志を固めた生徒に対する、入学前のアドバイスや教育の強化を継続しました。また、受験生の立場に立ち、受験関係書類や入学関係書類の改訂を実施しました。

広報に関すること

■新中期戦略、スタート

コミュニケーションフレーズをVery Interesting! からSCIENCE DREAM GARDENへシフトアップしました。本学の「思想」を伝えるステップへ進め

ていきました。



■科学っておもしろい！

昨年に引き続き、理工系大学としての使命と考える「科学のおもしろさ」を伝える広報施策を展開しました。「ミニ図鑑」、「しおり」、「サイエンスレクチャー」の継続に加え、HP「サイバラ」を活用し広域に情報発信を行いました。

■岡山理科大の研究力！

企業など一般の方々に対して、テレビミニ番組、ホームページへの動画掲載等で岡山理科大学の研究力を積極的にアピールしていきました。

人事・組織

■役職人事

平成24年4月より、学長として波田善夫教授が就任（再任）しました。

副学長は、管理運営担当に金枝敏明教授、教育研究担当に豊田真司教授が就任（再任）しました。

また、理学部長には高嶋恵三教授（再任）、工学部長には滝澤昇教授、総合情報学部長には濱谷義弘教授（再任）、生物地球学部長には星野卓二教授が就任しました。

なお、理・工・総合情報研究科長は、「岡山理科大学大学院研究科長選考に関する申合せ」に基づき、理・工・総合情報学部長が兼任しました。

■事務組織の改組

生物地球学部の開設に伴い、総合情報学部事務室を総合情報学部・生物地球学部事務室に改組し

ました。

また、外国人留学生も本学学生であるとの観点から学務部留学生課を廃止し、学務部学生課に統合しました。

主な行事

4月 2日	入学前オリエンテーション
4月 3日	入学宣誓式
4月 4日 ～ 7日	新入生・在学生オリエンテーション
4月14日	就職進路懇談会
5月12日 ～13日	皐月祭
6月10日	オープンキャンパス
7月 6日	七夕エコナイト
7月23日 ～8月3日	定期試験
8月 4日 ～5日	オープンキャンパス
9月 8日 ～ 9日 15日	教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学）
9月13日	後期オリエンテーション
9月23日	オープンキャンパス
10月 7日	AO入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅰ期
11月 3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅱ期
11月10日 ～11日	推薦入試
11月21日	OUSフォーラム
11月22日 ～24日	半田山祭（大学祭）
12月16日	加計学園推薦入試
1月19日 ～20日	大学入試センター試験
1月22日 ～2月7日	定期試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人			
大 学 院	理学研究科 (博士)	13	5		39	12		1	1	
	理学研究科 (修士)	76	47		152	97		1		
	工学研究科 (博士)	5	0		15	6	4			
	工学研究科 (修士)	66	34	8	131	82	12	1		
	総合情報研究科 (博士)	2	1		6	3		1		
	総合情報研究科 (修士)	20	13	2	41	42	3	1		
大学院 計		182	100	10	384	242	19	5	1	
学 部	理 学 部	応用数学科	95	114		360	458			0
		化学科	70	91		290	307			
		応用物理学科	70	58		280	269			
		基礎理学科	75	90		300	363			
		生物化学科	85	111		340	421			
		臨床生命科学科	85	120		340	413			
		動物学科	40	47		160	197			
		計	520	631		2,070	2,428	0	0	
	工 学 部	バイオ・応用化学科	75	84	1	300	371	2		
		機械システム工学科	85	108	2	340	390	16	1	
		電気電子システム学科	70	84		280	298	11		
		情報工学科	85	117		340	407	4		
		知能機械工学科	55	38	1	230	198	17		
生体医工学科		60	60	9	240	193	24	1		
建築学科		70	84	3	140	146	6			
計	500	575	16	1,870	2,003	80	2			
総 合 情 報 学 部	情報科学科	80	101	1	320	338	5			
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	—				
	生物地球システム学科 (募集停止)	—	—	—	210	241				
	社会情報学科	80	87	4	300	352	20			
	建築学科 (募集停止)	—	—	—	180	104	5			
計	160	188	5	1,010	1,035	30				
生 物 地 球 学 部	生物地球学科	100	119		100	119				
	計	100	119		100	119				
学 部 計		1,280	1,513	21	5,050	5,585	110	2	0	
総 合 計		1,462	1,613	31	5,434	5,827	129	7	1	
理学部理学専攻科		30	0		30	0				
教職特別課程		50	18		50	18				
留学生別科		60	9	9	60	9	9			

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成24年5月2日～平成25年3月31日)に入学した者です (単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	修了者・卒業生	満期退学	就職希望者	就職者	就職率	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者※	
			A	B	B/A					
大学院	博士	8	2	1	1	100%	0	3	0	5
	修士	148		117	103	88%	9	11	5	5
学部	1,032		661	597	90%	130	181	91	167	
教職特別課程	21		21	21	100%	0	0	0	0	

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成25年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	新日本製鉄(株) 住友金属工業(株)	JFEスチール(株) 積水ハウス(株)	(株)三井住友銀行 西日本旅客鉄道(株)	日亜化学工業(株) (株)クラレ岡山事業所	他
-------	-----------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	1	2	171	65	29	3	2	1	1	276

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	190	111

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度科目	24年度決算額	前年度決算額
学納金収入	8,426,430	8,065,304
補助金収入	1,257,615	1,181,149
その他収入	635,681	554,717
帰属収入合計	10,319,726	9,801,170
基本金組入額合計	△ 645,233	△ 465,096
消費収入の部合計	9,674,494	9,336,074
人件費	5,243,782	6,462,872
教育研究経費	2,650,071	2,722,141
管理経費	540,731	603,596
その他支出	126,083	138,371
消費支出の部合計	8,560,667	9,926,980

■施設設備整備（抜粋）

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを検討し、トイレについては改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器や改組新設した学科の設備等を計画に基づき整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
前島臨海教育施設新築工事	27,060
第20号館1階トイレ改修工事	10,859
第21号館1・2階トイレ改修工事	25,091
第11号館3～5階トイレ改修工事	24,810
第14号館1・3・4階トイレ改修工事	9,116
第27号館1階共通実験室機器設置設備工事	4,893
御津国際交流会館地上式オイルタンク設置工事	1,900
落石防止フェンス設置工事	920
エスカレーター下部目隠しフェンス設置工事	752
新建物関係工事設計料、他(建設仮勘定)	43,785

主な装置・設備関係

(鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業による大型機器)

事業名	金額
LD励起CWグリーンレーザー (補助内定額：6,650)	9,975

(QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業による大型機器)

事業名	金額
ハイスピードデジタルビデオ収録システム (補助内定額：15,120)	22,680
FORTUS360mc-S造形システム (補助内定額：12,649)	19,950
超高分解能電界放形走査電子顕微鏡システム (補助内定額：25,550)	38,325
マイクロPIV計測システム (補助内定額：21,884)	34,797
光学干渉計観測・計測システム (補助内定額：15,610)	23,772
超音波3次元ロケーションシステム ZPS-3D (補助内定額：6,734)	10,101

(サイエンスドリームラボによるフロンティア技術者教育の活性化による大型機器)

事業名	金額
複合材加熱硬化形成用オートクレーブ	20,580
X線応力測定装置	9,870
ニュータイプ汎用フライス盤	8,663
3次元高精度形状測定システム	6,003
高機能形熱画像カメラ	4,128
(補助内定額：49,215)	(合計:49,244)

(その他の大型機器)

事業名	金額
超高感度MALDI TOF/TOF MS autoflex speed TOF/TOF (補助内定額：25,764)	56,700

主な届出・申請関係

事業名	金額
生物地球学部 21号館屋上天文観測室設置工事	1,647
生物地球学部 機器・器具 (創設費)	15,036
生物地球学部 図書・雑誌 (創設費)	165
グリーン元素科学共同研究	55,836
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史共同研究	16,542
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	34,393